

令和5年度《学校経営計画》

名張市立美旗小学校

学校長 谷口 和也

1 学校教育目標

『 **みんな**仲良く **は**つらつとした **た**のしい学校 』

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	○子どもの思いや願いが大切にされ、一人ひとりが生き生きと楽しく学べる学校 ○ともに学び合い、ともに高まっていこうと協力し合う学校 ○元気なあいさつと明るい会話が交わされる笑顔いっぱいの学校 ○家庭・地域から信頼される開かれた学校
○児童・生徒像	○自分の考えや夢をもち主体的に学び続ける子 ○めあてをもって取り組み、最後までやりぬく子 ○なかまとつながり、支え合って共に生きていこうとする子
○教職員像	○目標の実現に向けて、個々の持ち味を生かし、組織として取り組むことができる教職員 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と指導力の向上のため研修と修養に努める教職員 ○児童・保護者・地域から信頼される教職員 ○健康管理や効率的な業務遂行を心がけ、勤務時間縮減や安心感のある働きやすい環境づくりに努める教職員
○保護者・地域像	○積極的に子育てや教育活動に関わり、学校や地域と連携・協働する保護者 ○学校や家庭とともに、地域の特性を生かしながら、積極的に学校に関わり、温かく子どもを見守り、子どもの良さを育てる地域

3 学校の現状

本年度の改善方策

○令和5年度の在籍児童は334名（4月1日現在）であり、17の地区から登校している。

○児童は、全体的に素直で明るく元気な子が多い。

○児童の課題が多様化しており、個々に応じたきめ細かな支援や指導が必要である。

○国語科の研究により、論理的な思考方法や対話的な学びの技能を身に着けつつあり、学びに向かう姿勢の改善がみられる。

- ・授業がわかる…93.2%（R3は91.4%）
- ・友だちの話を聴いて自分の考えを伝えている…87.6%（R3は84.8%）

○学習規律がある程度確保され、課題はあるものの人間関係も良好である。

- ・学校が楽しい…88.9%（R3は90.7%）
- ・自分に良いところがある…86.7%（R3は86.4%）

○コミュニティ・スクールを活用し地域のよさを生かし、豊かな学習環境で、地域学習や体験学習を取り入れながら学習を進めている。

○学力向上の基盤として、学習規律の確保と基本的生活習慣の確立を図る。

- ・授業がわかる…目標値 90%以上
- ・学校の勉強が好き…目標値 85%以上
- ・進んであいさつをしている…目標値 90%以上

○個々の児童の課題に応じて、研修部、生徒指導部、人権同和教育部、特別支援教育部等を活用し、学校体制できめ細かな支援を行う。

- ・学校が楽しい…目標値 90%以上
- ・自分には良いところがある…目標値 90%以上
- ・友達と協力して活動できる…目標値 90%以上

○地域の教育力（コミュニティ・スクール）を活用し、豊かな学びを構築する。小中の課題解決に向けて、小中一貫教育における各部会の取組を充実させ、9年間を見通した教育を目指す。

- ・自分の地域が好き…目標値 90%以上
- ・保護者・地域と連携している…目標値 80%以上
- ・将来の夢や目標がある…目標値 80%以上

4 重点的な取組事項						
番号	内 容	実 施 期 間				
		3	4	5	6	7
1	主体的・対話的で深い学びの構築	○	○	○		
2	一人ひとりの人権・命を大切にするなかまづくり	○	○	○		
3	コミュニティ・スクールを活用した小中一貫教育	○	○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		主体的・対話的で深い学びの構築
A 今年度の成果目標		
○授業がわかる…目標値 90%以上（R4 の 93.2%を維持する）		
○学校の勉強が好き…目標値 85%（R4 は 80.8%）		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	美旗小スタンダードの定着、モーニングチャレンジ（モジュール学習）を通して、学びの基礎を確立する。A I ドリルの活用を見据えて、効果的な家庭学習について研究を深める。	
②	ペア学習、グループ学習の手法を研究し、主体的で対話的に学ぶことができる児童を育てる。	
③	ICT の効果的な活用を研究し、学習の個別最適化をめざす。	

重点的な取組事項－2		一人ひとりの人権・命を大切にするなかまづくり
A 今年度の成果目標		
○学校が楽しい…目標値 90%以上（R4 は 88.9%）		
○自分には良いところがある…目標値 90%（R4 は 86.7%）		
○友達と協力して活動することができる…目標値 90%以上（R4 の 97.9%を維持する）		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	日常の活動の中で自分の思いや願いを伝えること、友だちの思いや願いを受け止めることを通して、互いにつながるなかまづくり（学級づくり・学校づくり）を進める。	
②	人権教育、道徳教育、なばり学等での学び、出会い・体験を通して、自分が好き・友だちが好き・地域が好きと実感できるような自尊感情を育む。	
③	即時評価によりポジティブな行動を支援し、児童一人ひとりが自己有用感を持てる取組を進める。	

重点的な取組事項－3		コミュニティ・スクールを活用した小中一貫教育
A 今年度の成果目標		
○自分の地域が好き…目標値 90%以上（R4 の 96.6%を維持する）		
○保護者・地域と連携している…目標値 80%以上（R4 の 82.8%を維持する）		
○将来の夢や目標がある…目標値 85%以上（R4 の 85.8%を維持する）		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	デジタルサイネージの活用、学級通信等の発行、学校ホームページの更新等で積極的な情報発信を行う。	
②	学校運営協議会を通じて、地域の教育力を活用し、学校支援ボランティアを充実させる。	
③	中学校区の児童生徒の課題から、各分野の取組を整理し、小中一貫教育を推進する。	

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30 時間以下 (30 時間以下の範囲)
	年 360 時間を超える時間外労働者数	0 人 (変更不可)
	月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数	0 人 (変更不可)
具体的な方策	毎週水曜日を「ノー残業デー」に設定する。 会議のペーパーレス化をより進め、会議時間の短縮に取り組む。60 分以内を目指す。 ICT を効果的に活用し、1 日の時間外労働を 2 時間以内に設定する。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	12 日以上 (各学校で設定)
具体的な方策	校務の属人化を避け、チームで取り組む。 教職員相互の良好な関係性を構築し、休暇の取りやすい風土を作る。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合	60%以上
具体的な方策	「ノー残業デー」を想定し、計画的に業務にあたる。 年間予定・月予定を意識し、見通しを持って取り組む。	